

「緑内障啓発 チャリティー・コンサート」の 収益金を緑内障の研究に寄付

緑内障の患者組織である緑内障フレンド・ネットワーク(代表:柿澤映子 会員数:1,800名)は去る2006年7月30日(日)、ヴァイオリン奏者の天満敦子さんをお迎えして緑内障啓発 チャリティー・コンサート「天満敦子 無伴奏ヴァイオリン・コンサート~その世界」を開催し、その収益金 60万円を、下記の通り日本緑内障学会、ならびに公益信託須田記念緑内障治療研究奨励基金()に寄付いたしました。

今回のコンサートは、緑内障について正しくご理解いただき、ひとりでも多くの方の早期発見につなげることを目的として開催されました。天満敦子さんはこれまでにチャリティー・イベントへの参加など、社会貢献活動へも精力的に取り組まれており、本コンサートの開催に際しても、緑内障フレンド・ネットワークの活動へご理解とご賛同を賜り、多大なご協力をいただきました。

当日は天満さんの演奏に加えて、緑内障についての対談や、無料での緑内障チェック体験会が開催され、緑内障の知識や早期発見・治療の大切さについて、ご来場の皆様にご理解を深めていただきました。

寄付金は日本緑内障学会を通じ、緑内障の啓発ならびに早期発見に役立てていただきます。

記

- 1.寄 付 先： 日本緑内障学会
公益信託須田記念緑内障治療研究奨励基金
- 2.寄 付 金 額： 50万円
10万円
(寄付金額はコンサートの入場料、および当日会場でお寄せいただいた募金の合計より、必要経費を差し引いたものです)
- 3.寄付実施日： 2006年8月25日(金)
東京大学眼科名誉教授室にて
2006年8月25日(金) 振込みにて寄付

以上



日本緑内障学会への寄付金は、理事長の
新家眞先生(東京大学医学部眼科学教授)に、
緑内障フレンド・ネットワーク代表の柿澤映子より手渡しました

「天満敦子 無伴奏ヴァイオリン・コンサート～その世界」開催報告

日 時：2006年7月30日(日)

会 場：サントリー小ホール

入場者数：289名

開催内容：コンサートに先立ち、天満さんと柿澤代表ならびに岐阜大学名誉教授 北澤克明先生による対談が行われ、自身も緑内障患者である柿澤代表より、緑内障早期発見の重要性などについて、体験談を交えてお話しいただきました。
コンサート終了後には、機器を用いた緑内障のチェック体験会が開催され、緑内障発見につながる「視野」のチェックを参加者に体験していただきました。



対談の様子

(左から柿澤代表、天満敦子さん、北澤先生)



緑内障チェック無料体験会の様子

視野をチェックできる機器「FDI」を使用
協力：カールツァイスメディテック株式会社

緑内障とは

緑内障は眼球の中の圧力(眼圧)が上昇することにより視神経が損傷を受け、視野(見える範囲)が徐々に欠けていき、放置すると失明する危険性がある病気です。日本では40歳以上の20人に1人が発症しており、視覚障害(中途失明)の原因の第1位と言われています。特にNTG(Normal Tension Glaucoma: 正常眼圧緑内障)は緑内障の約7割を占めていると言われ、眼圧が正常値にも関わらず視野が欠けていく緑内障のタイプです。NTGは眼圧検査だけでは発見できず、眼底検査、視野検査が診断の為に必要です。約8割から9割の患者が未受診と言われ、失明を未然に防ぐためにも、早期発見、早期治療が大変重要です。

緑内障フレンド・ネットワーク <http://www.gfnet.gr.jp/>

緑内障フレンド・ネットワークは、2000年6月1日に設立された緑内障の患者組織です。緑内障の患者、家族・身に患者のいる人、活動に賛同する個人、団体、企業などによって構成されています。代表には、自身も緑内障で、これまでも緑内障の知識普及のために活動を続けてきた柿澤映子が就任し、緑内障の研究と治療に長年携わってきた北澤克明・日本緑内障学会 前理事長が顧問としてサポートしています。また本ネットワークは日本緑内障学会、日本眼科医会からも支持を得ています。

公益信託須田記念緑内障治療研究奨励基金

故須田経宇熊本大学名誉教授が、日本緑内障学会の前身である日本緑内障研究会の会長を退くにあたり、昭和62年に私財を投じて設立、毎年優れた研究者に対し「須田賞」を授与しています。日本緑内障学会では須田先生の業績を記念し、須田記念講演を学会の特別講演として行っています。

本リリースに関する報道機関からのお問い合わせ

緑内障フレンド・ネットワーク事務局

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-16-501 TEL:03-3272-6971 担当:野田